令和５年度

社会福祉法人　京都育成の会

事　業　計　画

Ⅰ　社会福祉法人　京都育成の会　理念と中長期ビジョン

１　法人理念 ---------- １
２　長期ビジョン ---------- １
３　職員行動指針 ---------- １
４　スマイルプラン２０２６（中期目標）---------- １

Ⅱ　事業計画

１　法人事務局 ---------- ２
２　京都市よしだ学園 ---------- ６
３　京都市よしだ福祉工場 ---------- ８
４　西寺育成苑（全体）---------- １０
５　西寺育成苑（デイサービス）---------- １４
６　西寺育成苑（多機能型）---------- １６
７　西寺育成苑（相談支援）---------- １８

法 人 理 念

「私たちは、利用者と職員が喜び合って一緒に成長する支援を目指します。」
「私たちは、利用者が充実感を持って活動できる支援を目指します。」
「私たちは、利用者が社会とともにある(社会の中で共に生きる)ことを実感できる支援を目指します。」

長期ビジョン

1）新しいアイデアや発想を出し合ってチャレンジ、課題や目標に対し前向きに取り組む
2）利用者や職員がこの法人での仕事や活動について誇れる
3）地域の福祉やコミュニティーにとって重要な役割を担う

職員行動指針

1）利用者の尊厳を守ります
2）利用者の個性を理解し、個々の思いを引き出し実現へ尽力します
3）職務に必要な専門的知識を学び、成長を続けます
4）ルールを守り、チームワークを大切にして、目標達成を目指します
5）創意工夫により、時間と経費の無駄をなくす努力をします
6）地域課題やニーズを把握し、公益的な取組を推進します
7）外部資源との連携と情報発信を積極的に行います

スマイルプラン 2026（中期目標）

〔利用者・家族〕
1）地域課題やニーズを根拠にした新規事業や公益的な取組
2）魅力的な商品の開発による収益・工賃向上、利用者の確保への取組
3）利用者の満足度を高める取組
〔職員〕
4）人材育成とモチベーションアップに向けた取組
5）人材確保と定着への取組
6）業務効率化とＤＸ（デジタルトランスフォーメーション）推進
〔地域社会〕
7）地域連携と貢献活動の拡充
8）事業活動や法人の強みや魅力発信（イメージアップ戦略）の強化
〔経営・組織〕
9）組織・財政基盤強化

令和5年度 法人事務局 事業計画

1　今年度の重点実施項目

①　新規事業（グループホーム開設）の準備

「早期のグループホーム」の実現に向けて、候補となる土地調査や検討を進めてきた経緯を踏まえ、今年度は、グループホームでの勤務経験職員等も交えて「新規事業スタートチーム（仮称）」を立ち上げ、新規事業の具体化に向けて取組を進める。また、利用者家族への周知も図っていく。

②　人事評価制度と中長期ビジョンの連動と浸透

前年度、新設した「人材育成制度検討会議」での検討等結果を踏まえ、中長期ビジョンに沿って、より明確にブラッシュアップした能力考課表や役割等級表などを適応して運用し、職員への浸透と定着を図る。

③　組織活性化への取組

・　法人業務推進会議（仮称）を発足

施設長及び各施設のマネージャーを加え、施設長会を拡大・充実する「法人業務推進会議（仮称）」を発足し、定例開催（月１回）して組織活性化を図る。

・　事務業務のスリム化と将来的な法人事務局への集約化

令和４年度は、各施設の事務手続き方法の共有、様式類・情報セキュリティのための各種ガイドラインを法人で統一して制定するなど、事務の均一化を実施してきた。令和５年度は、事務担当者会議を引き続き実施し、法人内の事務部門を効率化していくため集約も含めた協議も行い、余力を人材確保・定着、魅力発信、新規事業取組などへ向ける。

・　各施設と法人事務局との連携の更なる強化を図る。

2　今年度の計画・目標

利用者・家族

①　利用者家族への情報提供

・　利用者家族が必要とする情報提供について、さくら連絡網をはじめＳＮＳを活用して発信する。

・　要望の多いテーマで研修会を実施する。（ＷＥＢとの併用）

職員

①　永年勤続表彰と法人研修会

７月に法人創立記念行事（永年勤続表彰・全体研修等）を実施する。

②　現状課題の把握と取組

前年度に引き続き全職員を対象に職場活性化プログラム（アンケート）の実施、課題の把握と改善点について検討し、全職員へ報告するとともに事業推進や労働環境改善に反映させる。

③　人材確保と定着

将来の組織強化のための人材確保として新卒採用を継続、前年度から発足した「新卒採用チーム会議」メンバーを中心に採用活動の準備、内定者フォロー、インターシップの受入を実施。

また、新規採用職員には事務局による個別面談を実施する。

④　処遇改善

処遇改善手当（特定・ベースアップ等含む）の継続支給

⑤　資格取得支援・福利厚生（きょうと福祉人材認証制度取組項目）

・　資格取得促進･有給取得･心身の健康維持について、現場職員からの意見もすくい上げ取り組んでいく。

⑥　業務効率化

・　事務業務の効率化及び法人内の情報共有促進

・　インボイス制度及び改正電子帳簿保存法への対応

・　電子申請及びペーパーレス化の推進

地域社会

①　情報発信の拡充

・　法人サイトへ魅力ある取組や活動について掲載発信

・　法人 Twitter においても週１回程度の情報発信を行う

・　利用者家族や関係機関、地域住民など多くの方に、年間の活動内容を周知いただけるよう、カラー刷りの事業報告書の発行に取り組む。

②　障害者に対する理解を深めるための取組

講師を招いての地域住民（利用者家族）も参加できるセミナーを実施

経営・組織

①　理事会と評議員会、監事監査（事業監査・会計監査ともに５月）の実施

令和５年度の５～６月開催の理事会・評議員会は役員改選があるため早めに日程を確保する。

②　法人業務推進会議（旧・施設長会）（月１回）

・　決定事項については職員へ迅速かつ正確な情報共有を行う。（さくら連絡網他）

・　事業計画の進捗状況についてのチェック機能を果たす。

計画は 11 月・5 月(事業報告)、予算は 8 月・11 月・2 月・5 月(決算)

③　外部専門家による助言指導

・　顧問税理士による隔月の巡回監査と年２回の経営分析会議を実施する。

・　顧問社労士による定期的な人事評価及び労務管理についてのフォローアップを得る。

・　各施設で実施している虐待防止の取組を集約のうえ、法人全体での虐待防止委員会を開催する。

③　第三者評価受診

各施設３年に一度の第三者評価受診を実施する。（京都市よしだ学園が受診予定）

④　リスクマネジメント

・　自然災害発生時における業務継続計画（西寺育成苑）

・　自然災害発生時における業務継続計画（京都市よしだ学園、京都市よしだ福祉工場）

・　新型コロナウイルス感染症発生時における業務継続計画（京都育成の会）

を策定し、各施設と連携して諸計画の定着、ブラッシュアップを図る。

⑤　財務管理

予算内での事業完了を目指す。

⑥　情報収集と共有

経営協や府社協等のセミナー受講などにより、社会福祉法人制度改革や障害福祉サービスの動向を情報収集し、各施設へ共有する。

⑦　その他

補助金等の情報収集強化と情報共有、消費税、行政への提出資料等について期限内に申請・納付・報告等を行う。

3　職員体制と役割

事務局体制

事務局長１名　事務局次長１名

役　　割

①　理事会・評議員会・監事監査・施設長会の日程調整と運営
②　社会福祉充実計画の実施管理
③　諸規程の整備及び改定
④　人事評価制度及び労務関係統括
⑤　新卒採用担当（採用サイト管理・説明会や見学会実施・内定者フォロー）
⑥　法人全体での委員(研修)会と永年勤続表彰運営
⑦　法人本部拠点の会計管理
⑧　法人全体の予算及び決算の集約と資料作成（決算附属明細書等含む）
⑨　法人全体にかかる行政書類の集約と提出
⑩　ホームページ管理

４　年間スケジュール

月	機関会議	監査関係	申請・報告・労務	採用関係	その他 （研修・認証等）
	【法人業務指針会議】 毎月第２水曜開催 ・月次報告 ・事業実施状況確認等	【巡回監査】 顧問税理士 ・よしだ ・西寺育成苑 ⇒隔月実施		フォロー ・新採職員 ・内定者	
4			共生サポート 事業補助金報告 福祉医療機構へ掛金対象職員届提出 処遇改善計画書提出	人事発令 辞令交付式 新卒採用者 研修	第三者評価応募
5	理事会資料の確認 第１回理事会(決算)	京都市役員研修会 事業・会計監査（決算）監事	福祉医療機構へ 掛金納付 【成果実績・面談】		健康診断 ストレスチェック
6	定時評議員会 第２回理事会 （理事長選出）		【現況報告書】 （届出・公表） 【法人登記】		
7			処遇改善報告書提出		創立記念行事 ・永年勤続表彰 ・記念講演会
8			共生サポート事業補助金申請	インターンシップ受入	
9				来年度 プレサイト 掲載	職場活性化 プログラム実施
10				新卒採用 内定式	
11	第３回理事会 （執行状況）	上半期収支分析	【成果実績・面談】		唐橋西寺育成 苑まつり
12	職場活性化プログラム 結果集約	会計監査（中間）			法人虐待防止 委員会
1				内定者研修	第三者評価受診
2	来年度事業計画案		【能力考課・面談】	インターンシップ受入	
3	第４回理事会(予算)			新卒採用	

令和５年度　京都市よしだ学園　事業計画

1　今年度の重点項目

① 利用者満足度の向上

・利用者が主体的に参加意識を持てる取り組み

・家族の会での研修会の実施

② B 型事業収入の増加、取組の充実化

・豊富な作業内容の確保

・B 型事業収入目標　5,000,000 円(平均工賃 12,000 円)

③ 地域との連携強化

・北部障害者地域自立支援協議会へ参加し地域課題等を共有と圏域の関係機関との連携

・地元学区各種団体等と協力し地域イベント実施に向け企画する。

2　今年度の計画・目標

利用者・家族

① 個別支援計画に沿った支援

② 生産活動への取組

③ 健康管理・感染症対策

④ ご家族との交流・連携

⑤ 給食の実施

職員

① 人材育成計画に沿った研修の実施

② 虐待・身体拘束の防止にあたっての取組

③ 健康管理

地域社会

① 地域交流と貢献

② 圏域の事業所との連携

② 各種実習の受け入れ

③ 支援学校との連携強化

経営・組織

① 法人本部・法人各事業所との連携

② リスクマネジメント

・支援会議内でヒヤリハット事例を検討し利用者の安全管理に努める

・苦情やご意見ご要望に対して受付方法の周知徹底と丁寧な対応

③　災害対策

・設備の点検やマニュアルの確認を定期的に実施

・月１回避難訓練を行う（内１回は鹿ケ谷消防署と連携し訓練を行う）

④　第三者評価の受診

3　サービス内容

（１）就労継続支援Ｂ型(定員 35 名)

（２）指定特定相談支援事業

4．職員体制

サービス種別	就労継続支援Ｂ型	特定相談支援
管理者	１名(兼務)	
サービス管理責任者	１名	
職業指導員	１名	
生活支援員	４名（内非常勤２名）	
目標工賃達成指導員	１名	
相談支援専門員		２名(兼務)
事務員	１名(兼務)	

5．年間スケジュール

月	各種会議委員会	見学・実習受入	行事/利用者健康管理
	毎週水曜日支援会議 月１回職員会議 虐待防止・身体拘束等適正化委員会 相談支援会議 給食会議（3ヶ月毎）	随時見学受入 必要に応じて各種実習等受入	体重測定（毎月第２火曜） ヨーガ教室（毎月第３木曜） 地域イベント（時期内容未定）
4			園外活動
5		福祉実習受入	
8			大文字送り火屋上開放
9		福祉実習受入	家族合同行事
11		福祉実習受入	吉田山清掃参加
12			とっておきの芸術祭
1			初詣・園内レクリエーション 健康診断

令和５年度　京都市よしだ福祉工場　事業計画

１　今年度の重点実施項目

①　利用者確保と利用率の向上

利用者を２９名以上確保し、年間利用率８８％以上を目標。

支援学校や就労移行支援事業所など関係機関に働きかけ利用者の定員（３０名）確保を目指す。

特に支援学校の生徒の確保に注力し、利用者の平均年齢を下げる。

②　給付費収入及び就労事業収入の向上

スコア表の点獲得のための取り組みをし、スコア評価１５０点以上をめざす。

清掃事業収入の安定確保に向けた取組や、契約をより高い金額で交わせるように交渉する。

令和５年度目標の平均工賃６３，０００円。

２　今年度の計画・目標

利用者・家族

（１）工賃向上及び利用者満足度を高める取組

今している仕事に自信を持てるよう、清掃技術の向上のための支援・研修をし、評価をする。

職員の清掃レベルを上げられるよう職員の清掃研修や他事業所との情報交換を行う。

より効率的・魅力的な清掃現場の開拓をする。

（２）健康管理・感染症対策

医療連携をし、利用者の健康を管理し成人病の予防を働きかける。異常があった場合は利用者のかかりつけ医と連携し早期の治療につなげる。

夏に健康診断の受診をする。

感染症対策としては控室の換気・消毒・昼食を時差で取るなどを引き続き行う。

（３）家族との交流と連携

年２～３回の家族の会を実施し、現在の状況の説明や今後の方針の説明を行う。家族の要望の聞き取りを行う。

連絡帳で日々の情報交換を行う。

職員

（１）人材育成・研修計画

年に１回以上の研修会への参加とサポーターズカレッジを定期的に受講する。

（２）人材確保（インターンシップや実習含む）と定着への取組

職員会議で意見を集約し施設長会で共有する。

（３）健康管理・職場環境の整備

夏に職員の健康診断の受診をする。

ストレスチェックを実施する。

地域社会

（１）協力事業

清掃現場の周辺で清掃できるところがあれば清掃に取り組む。

委託事業所との情報交換を密にし、満足度を高める。

（２）交流事業

１１月３日に kokoka で実施されているオープンデイに参加。企画し、景品の提供と出店を行う。

経営・組織

（１）リスクマネジメント

虐待防止会議を虐待防止委員会で毎月実施。

苦情解決　研修に苦情解決担当者が参加。

（２）防災・防犯

年に２回、各現場で避難訓練を実施。防犯も想定して避難を検討する。

（３）設備購入・修繕計画

定期清掃（ワックスがけや絨毯の清掃）のための機材の購入

３　サービス内容

４　職員体制等（基準となる人員と職員の役割明確化）

京都市よしだ福祉工場(常勤換算での配置基準)

サービス	就労継続支援Ａ型（常勤換算）	
管理者兼サービス管理責任者	１名	
職業指導員	１名	
生活支援員	９名	常勤４名＋非常勤９名
事務員	１名	非常勤１名

清掃作業利用者出向計画

出向先	作業内容	配置人数	
		職員	利用者
ハートピア京都	館内清掃（４Ｆ～８Ｆ、B2）	1	5
kokoka 京都市国際交流会館	外周清掃	1	3
京都大学構内	館内清掃	1	7
下京区総合庁舎	館内清掃	1	3
京都テルサ	館内清掃	1	5
新山科浄水場	管理棟清掃	1	3
桃山学園	館内清掃	1	2

令和５年度　西寺育成苑　事業計画

1　今年度の重点実施項目

① 職員の資質向上

・OJT 制度の機能向上

・事例検討会の開催

② 利用者満足度の向上

・利用者個々の状況を把握したうえでの取り組み

・福祉制度や他事業所についての情報提供

③ 財政基盤の安定

・新規利用者の獲得と利用日数の向上

・就労事業収入の向上と工賃向上（就労継続支援Ｂ型）

パン事業収入　8,800,000 円、下請け事業　5,700,000 円、平均工賃額　18,000 円＋α

2　今年度の計画・目標

利用者・家族

●満足度を高める取り組み

① 現状やニーズに基づく個別支援計画に沿った支援の実施

② 障害特性の理解と環境整備の実施

③ 感染防止対策の徹底

④ 年２回定期健康診断実施（但し週３回以上の利用に限る）

⑤ 給食嗜好調査の実施（11 月）

⑥ 全体保護者懇談会の定期開催（年３回）

⑦ 小グループでの保護者懇談会及び自由見学会の実施

⑧ ご家族向け研修会の実施（相談支援　年１回）

職員

●資質向上に向けた取り組みと職場環境の向上

① 法人理念、職員行動指針の理解

② 職員全体研修の実施（8 月：虐待防止，１月：事例検討会，３月：次年度事業計画説明）

③ 自閉症についての学びを深める（「かがやき」との連携）

④ 階層別外部研修の受講

⑤ サポーターズカレッジの活用（等級に応じたコンテンツの受講）

⑥ 他事業所の見学及び体験

⑦ 業務効率化に向け福祉業務支援ソフト「ほのぼの」の更なる活用

⑧ 健康管理（健康診断受診体制充実、ストレスチェック実施、インフルエンザ予防接種）

⑨ 施設内における職員間の親睦を深める取り組みを行う

地域社会

① 唐橋西寺育成苑まつりの開催

・西寺育成苑内実行委員会で大枠は進める

・対外的な部分は法人事務局と協力

② まちライブラリー@ハチダンとの連携

・運営に関する協力

・カフェとの協力（パン工房）

③ 開建高校との連携

・食堂との連携（パン工房）

・行事への参加

・生徒との交流（インターンシップ受け入れ、学校見学、カフェ利用など）

④ まちライブラリー@さいじテラスの活性化

・設備の管理（新たな本棚の運用開始）

・ワークショップの開催　（地域の方にまちライブラリーを知っていただくため）

・唐橋まちライブラリー運営に関する情報共有と、関連企業等との連携

⑤ 各種実習・見学希望者の受入

・資格取得のための大学生及び専門学校生

・進路に関する職場体験のための総合支援学校生、チャレンジ体験の中学生

・総合支援学校生徒、保護者、教員対象の見学

⑥ その他

・地域の小学生との交流（パン教室、施設見学、苑まつり）

・ハピネスこども食堂との連携

・各種団体への貸館

・現場職員と地域との交流機会（清掃活動など）

経営・組織

① 委員会活動の充実（別紙あり）

② 各種会議の充実（運営会議・相談支援会議・個別会議・個別支援会議）

③ 外部機関との連携（地域のネットワーク会議への参画）

・中部障害者自立支援協議会　・生活介護連絡協議会　・南区プラットフォーム会議

・唐橋まちライブラリー及びまちライブラリー@ハチダン　・京都中小企業家同友会

④ 運営状況の把握

・施設長会、顧問社労士の巡回、顧問税理士の巡回について部門責任者への情報共有

・財務状況の確認

・法人間の会議及び委員会への参画

⑤ 建物管理

・エレベーターの基盤交換

・その他不良個所発見時の速やかな修繕

3　サービス内容

（1）多機能型施設（定員 60 名）

1）就労継続Ｂ型（定員 30 名）　パン製造販売・下請け作業

2）生活介護　（定員 30 名）

（2）デイサービス（定員 20 名）

（3）指定特定相談支援事業所

4　職員体制　（　）内の数字は非常勤職員

拠点区分	多機能		デイサービス	特定相談支援
サービス種別	就労継続支援Ｂ型	生活介護	生活介護	
管理者	１名（兼務）			
サービス管理責任者	１名	１名	１名	―
目標工賃達成指導員	１名	―	―	―
職業指導員	２名	―	―	―
生活支援員	４名（２名）	５名（２名）	11 名（１名）	―
相談支援専門員	―	―	―	２名(兼務)
看護師	―	１名（兼務）		―
事務員	２名（兼務）			

5　年間予定

	全　体	多機能型施設	デイサービスセンター	個別支援計画
4	広報紙「さいじ」発行 健康診断実施 保護者懇談会			新年度個別支援計画開始
5	消防避難訓練	多機能通信発行	デイ通信発行	
6		多機能通信発行	デイ通信発行	
7	内科健診 広報紙「さいじ」発行 保護者懇談会		夏まつり	
8	施設内職員研修	多機能通信発行 夏まつり	デイ通信発行	
9		多機能通信発行	デイ通信発行	モニタリング 後期個別支援計画作成
10	広報紙「さいじ」発行 消防避難訓練	とっておきの芸術祭作品作り	苑まつり準備 とっておきの芸術祭作品作り	
11	唐橋西寺育成苑まつり 内科健診実施 インフルエンザ予防接種 嗜好調査実施	多機能通信発行	デイ通信発行	
12	保護者懇談会	多機能通信発行 とっておきの芸術祭出品 クリスマス会	とっておきの芸術祭出品 クリスマス会 デイ通信発行	
1	広報紙「さいじ」発行 施設内職員研修			
2	大規模災害避難訓練	多機能通信発行	デイ通信発行	次年度個別支援計画策定に向けて面談及び検討会議
3	シェイクアウト訓練 年度末職員研修	多機能通信発行	デイ通信発行	次年度の個別支援計画の作成
その他	・各種実習生及び見学者の随時受け入れ ・小グループでの保護者懇談会、見学会	・リハセンの訪問事業利用 ・地域行事でのパン販売	・苑内畑での作物づくり ・散髪 毎月１回実施 ・音楽遊び 毎月２回実施 ・ダンス教室　毎月２回実施 ・リハセンの訪問事業利用	・必要に応じて、随時家庭訪問や面談を行う。 ・個別マニュアルの見直し ・業務マニュアルの見直し ・各種書類作成

令和5年度　施設内委員会の設置について

	内容	開催頻度
虐待防止・身体拘束等適正化委員会	・ヒヤリハット、アクシデント、事故発生時の情報共有と内容検証および再発防止策の検討 ・虐待防止マニュアルの適宜見直し　・虐待防止セルフチェックリストの実施と活用 ・身体拘束の適正化　・法人開催の虐待防止委員会への参加 ・施設内虐待防止研修の開催　・施設外虐待防止研修の受講	毎月1回
防災	・避難訓練の実施　地震火災2回、水害1回、シェイクアウト1回 ・自衛消防隊の確立　・地元消防団との連携　・不審者対策マニュアルの作成 ・普通救命講習受講の手続き　・福祉避難所についての理解	3ヶ月に1回
広報兼地域交流	・広報誌の発行（1，4，7，10）　・各部署通信の発行（2，3，5，6，8，9，11，12） ・さいじテラスの活性化　・まちライブラリーの運営、ツイッターの更新 ・地域への広報活動	随時（別途広報誌の校正時）
苑まつり	・唐橋西寺育成苑まつりに向けての準備 ・地域各種団体との調整、実行委員会への出席 ・ステージ出演者との調整　・出店者との調整 ・法人事務局との連携　他	随時
衛生	・利用者・職員の健康管理及び健康診断の調整　・職場内の衛生管理 ・感染症対策の徹底と周知　・感染症発生時の対応協議 ・各マニュアルの見直しと周知	年7回程度
車両管理	・日々の車両チェックと衛生管理の徹底　・車両点検の情報共有 ・車両事故発生時の情報共有と再発防止策の検討 ・車両管理及び運転に関する研修開催	随時
給食	・魚国との調整　・嗜好調査の実施 ・献立表の発行　・給食の今後に向けた検討	●4ヶ月に1回（魚国込み） ●数ヶ月に1回（魚国無し）
OJT	・人材育成についての進捗状況の共有 ・業務マニュアルの作成	随時

令和５年度　西寺育成苑デイサービス　事業計画

１．今年度の重点実施項目

① 利用者満足度の向上

・自閉症の各利用者に対して支援を充実させていく。

・保護者等に日々の活動を見学・参観をしてもらった上でアンケートを実施し、利用者、保護者の持つニーズを把握し、答えられるようにしていく。

② 財政基盤の安定

・安定した利用率を目指すために 26 名登録を目標に各福祉事務所（山科、左京区以外）と相談支援事業所と連携を取り利用者確保に努めて行く。（右京区、南区を重点的に）

③ 職員の資質向上

・各職員に１名は自閉症の利用者を担当してもらい、自閉症支援を柱に育成を図る

・次期、副主任、主任を担う人材育成を行う

・階層に応じた研修受講と資格取得に向けた取り組み

・強度行動障害支援者養成研修の受講

２．今年度の計画・目標

利用者・家族

●満足度を高める取り組みを行う

① 定期の懇談会に加え見学会（参観日）を設ける

② 感染防止対策の徹底として、利用者の降苑後にデイルームやトイレ、風呂場の消毒を実施。支援者はマスクと手袋をはめ支援する。

③ さくら連絡網では小さくて読めないと言われる保護者もいるために重要な件に関しては紙媒体での配布も検討していく。

職員

●資質向上に向けた取り組みと職場環境の向上

① 個別会議の時間を用いてサポーターズカレッジを視聴

② 多機能型、よしだ学園、よしだ福祉工場の見学又は体験実習を行う

経営・組織

① 個別会議

職員間の情報の共有やサービスの改善・向上、意思統一を図るために毎週木曜日に開催

② 個別支援会議

前年度は自閉症支援に重点をおいた会議を実施する。今年度も自閉症会議を定期的に開催し、支援員個々の能力を上げて行く。

③ 外部機関との連携（地域のネットワーク会議への参画）【生活介護連絡協議会など】

３．サービス内容

①体ほぐし

身体機能を維持・向上並び心身のリラックスや気分転換を目的として理学療法士の指導の基に筋・関節運動等を行う。年々、体ほぐしを受けている利用者の体が硬くなってきていることもあり、対象者は一度、リハセンの訪問を受けてもらう。

②ものづくり

創作活動を行うことで「物を作る喜び」や達成感を味わう。また協力して作業を行うことで協調性を養っていく。季節に応じた作品をつくり廊下や玄関に飾っていく。

③入浴

温水により種々の感覚を刺激して心身機能の維持･向上を図り、身体的リラックスと清潔、介護者の負担軽減を行うことを目的とする。(希望者を対象に行う)

④ウォーキング

安全確保を行いそれぞれの特性に合わせたウォーキングを行うことで無理のない全身運動と気分転換を図る。

⑤レクリエーション

卓球バレーやボッチャなどのゲームや遊びを行うことで体を動かしたり、脳を使うことで身体機能の向上、脳の活性化、コミュニケーションの活性化を目的とする。

⑥音楽遊び

月に 2 回程度、音楽の持つ生理的、心理的、社会的働きを用いて、心身機能の維持、改善を目的とする。

⑦散髪

月に一度、理容師を迎え、頭髪を清潔にし、身だしなみを整え、介護者の負担軽減を行うことを目的とする。(希望者を対象に行う)

⑧送迎サービス

利用者並びに介護者の肉体的、精神的負担の軽減と確実な登苑、降苑を目的とする。

※今年度で山科コースは終了予定。新たな利用者獲得に向け洛西方面のルートを開拓させていく。

⑨ダンス教室

外部から講師を迎え月に 2 回実施する。心身機能の維持、改善を目的とする。

苑まつりでの発表を目標に置き練習する。

週間プログラム

	月	火	水	木	金
午前	ものづくり 体ほぐし 自立課題 ダンス教室	ものづくり 体ほぐし 音楽遊び	ものづくり 体ほぐし 散歩	散歩 体ほぐし 自立課題	女性入浴 ものづくり 体ほぐし
午後	レクリエーション	男性入浴 カラオケ	女性入浴 レクリエーション	男性入浴 レクリエーション	男性入浴 カラオケ

4．個別支援計画の作成

・サービス管理責任者を中心として、最長 6 か月の間隔でモニタリングを実施し、個別支援計画の検討・作成を行う。

・強度行動障害を有する者に関しては、個別に支援計画シートを作成し、それに基づき実践研修修了者が登苑時間内に個別の支援を行う。

令和４年度　西寺育成苑　多機能型　事業計画　　～苑事業計画に基づいて～

１　今年度の重点実施項目

（全体）

○利用者満足、利用率増に繋がる活動の充実化

・利用者の希望や課題に沿った活動と少数でのグループ活動
・一日の様子や近況を定期的に保護者に知らせ、また変更等があれば速やかに説明を行う
・内外の相談支援事業と連携し、利用に結びつく対応を検討実施していく
・利用者個々の特性や能力に適した活動、作業を提案実施に繋げる
・一定期間休んでいる利用者と連絡を密に取ることで支援の中断を防止
・将来設計を踏まえた利用者支援を行う
・全体で楽しめるお祭りを計画

○収入(事業収入、就労収入)の増加、安定化と利用者人数の確保

・就労収入　目標　14,500,000 円(Ｂ型　5,700,000 円／パン　8,800,000 円)
・Ｂ型利用者平均工賃　　18,000 円＋α／月
・生活介護収支均衡調整継続
・Ｂ型平均工賃の向上化に取り組む
・加算申請による事業収入の維持継続(重度障害者支援加算の運用等)
・新規利用者増加に向けて取り組む(支援センターや支援学校への新規の打診)

○職員の育成、質向上に向けて

・毎月一人事例発表による部署内研修
・各職員の階層別外部研修受講計画化
・国家資格取得の奨励(年１人以上)
・役職や等級に応じた職務遂行と職位向上(年１人以上昇級)
・業務関連資格の取得奨励

2　各サービスにおける今年度の計画・目標

生活介護　～利用者の充実感、生活力向上に向けた取り組み

・利用者、家族の要望や課題に基づく活動内容、場所等の環境設定と根拠に基づいた継続した支援体制の構築
・生産活動に偏らず生活スキルの向上や身体機能の向上、楽しみの持てるレクリエーション、想像力をより豊かに表現できる創作活動、社会生活を過ごす上で必要な力を養う SST 等を取り入れてプログラム化を行う
・生産活動、生産収入に応じた工賃支給(生活介護内で収支の調整)
・利用者の障害特性、能力に応じた根拠ある支援(アセスメントの強化と自己研鑽)
・利用者の活動の様子を写真や動画に収め、定期的に保護者へ提示
・利用者の利用回数向上に向けた取り組みを各職員が意識して取り組む(利用回数増に向けた打診や欠席時の次の利用に向けた対応等)
・目標設定を行いそれに向けた活動を実施(「とっておきの芸術祭」出展など)

就労継続支援Ｂ型

○下請
・目標予算に応じて、各社の目標金額を設定し、目標を達成できるよう取り組む
・担当と業者間で連絡を密に取り、より単価の高い作業の依頼が安定して受けられるよう対応していく
・優先順位を常に考慮し職員同士で一致した作業運営が行えるように情報共有、意思統一を行う
・各職員が全ての業者の作業を理解し、確認が出来るようマニュアル作成や手順書の作成、改訂、活用を行っていく
・月度途中に売上を確認し、その時点で月目標に近づけるよう職員全体で検討対策を行う
・利用者の希望の作業と依頼する作業の調整(利用者の満足、充実感への取り組み)
・環境整備(整理整頓、毎日清掃導入、作業の動線を考慮した配置、資材置き場の確保等)

○パン工房
・原材料、製造数、販売数、残数等の管理を強化(原価率を下げることで利益率の向上)
・販路促進の強化(チラシの定期配布、カタログの作成、ブログやインスタグラム等の SNS の活用等)、近隣企業との提携
・新規納品(販売)先についての販売商品の選定や売上向上に向けた取り組み
・個別支援計画に基づき各利用者の能力向上に向けた支援の取り組み
・利用者の生活面での支援の取り組み強化(掃除、整理整頓、身だしなみ、時間順守等)
・接客等対人マナーが身に付くよう支援実施
・業務の可視化、情報共有化の継続的取組(販売納品スケジュールや商品宣伝)
・販売、納品先や休日販売の選定、検討(できる限り休日販売を減らし、平日での売上強化)
・業務の効率化による職員負担軽減(納品３本柱(イオン、高校、団地)での売上向上計画)

以上

令和５年度　指定特定相談支援事業所 西寺育成苑　事業計画

1. 今年度の重点実施項目

① 家族への情報提供

・家族に向けて様々な情報提供を家族対象の研修などで行っていく

・その人にとっての地域で自立した生活を送るための支援を共に考えていく

② 相談支援専門員の自己研鑽

・相談支援専門員としての資質向上のため、研修などに積極的に参加し、自己研鑽に努めるとともに、外部の機関との連携を強化する。

③ 意思決定支援の強化

・利用者と信頼関係を構築し、本人主体の自己決定・自己選択を支援する。

④ 地域課題の把握

・地域の人とコミュニケーションを取るために、交流の場を企画する。

2. 今年度の計画・目標

利用者・家族

・年に一回以上の家庭訪問または面談等を行い、利用者・家族の現状及び正しいニーズの把握。

・家族に対してアンケートを実施し、関心のある内容の研修を実施する。

・本人の選択肢が広がるように、様々な経験を積んでいく（施設見学や短期入所の利用）

・利用者の希望及び家族状況や生活を総合的に捉え、支援する。

・住み慣れた地域で安心して暮らしていけるように支援をする。

・利用者の立場を考え、権利擁護の立場からも支援する。

・本人のストレングスに着目し、自立した生活を目指す。

・本人、家族、関係機関からの情報を基にアセスメントを作成し、幸せな生活を送るために必要な支援や、活用できるサービスについて考える。

職員

・各種研修に積極的に参加し、職員個々の知識や支援技術の向上を目指す。

・様々な相談や状況に対応できるように、自己研鑽に励み、また自分自身の強みや弱みを知る。

・個別ケースに対する直接支援に限定されることなく、広い視野を持ち、地域や関係機関と連携を取り続ける。

・本人、家族、関係機関から話を聞く、様子を観察するなど、本人をよりよく知っていく。

・情報提供を実施するため、様々な施設見学を実施する。

地域社会

・個別避難計画策定に向け、各利用者の居住地域の状況把握に努める。

・個人の課題から地域の課題として展開し、関係機関や地域住民と解決していけるような土台作りを行う。

経営・組織

① 外部機関との連携

・サービス担当者会議やサービス提供を通して、ネットワークの構築、強化を図る。

・地域ケア会議、南区プラットホーム事業、相談支援専門員カフェなどに参加し、地域課題などを共有する。

・支援学校に見学に行き、卒業後の進路についてのニーズを掴む。

・障害保健福祉課、各支援センターとの連携を強化し、地域課題の把握に努める。

② 各種会議の充実

・相談支援会議の定期的な開催

・西寺育成苑内での共有

・相談支援事業所よしだとの連携